

阿蘇の草原の維持と持続的農業を 未来につなぐ

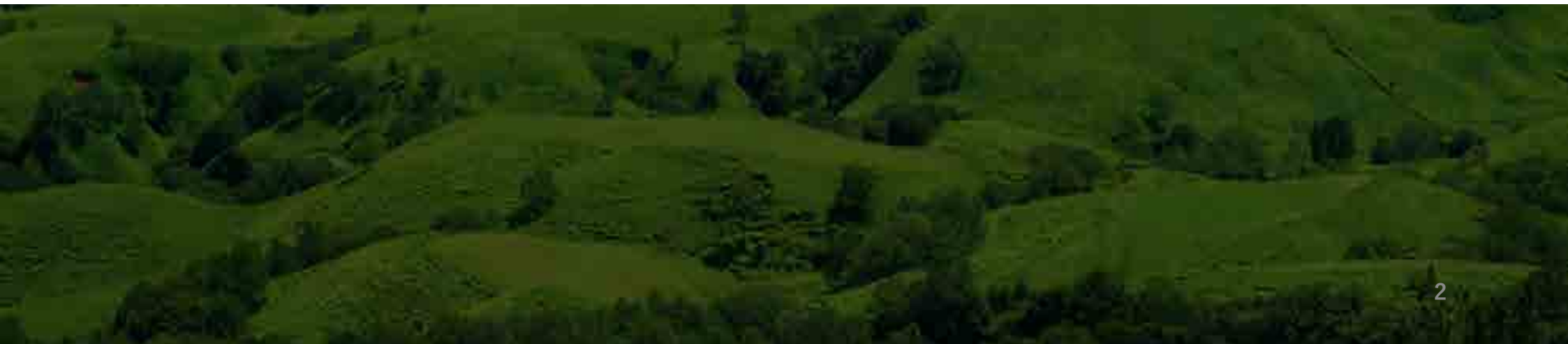
阿蘇地域世界農業遺産推進協会
(熊本県阿蘇地域振興局農業普及・振興課)



目次

1. 阿蘇地域について
2. 阿蘇地域世界農業遺産としての価値
3. 現状・課題
4. 阿蘇地域世界農業遺産の取組み
5. 未来につなぐ

～企業と歩む阿蘇地域の取組み事例～





阿蘇地域について

○年平均気温：11～14℃

○年間雨量：約3,000mm

○火山とカルデラ、自然豊かな高原地帯に約6万人が暮らす。

○高原の冷涼な気候を活かした、米、野菜、畜産を柱とする農業生産が行われている。

○また、豊かな森林資源を活かした、林業や観光業も盛んな地域。



阿蘇市、南小国町、
小国町、産山村、
高森町、南阿蘇村、
西原村
全7市町村からなる地域





阿蘇地域について

平成25年5月世界農業遺産認定

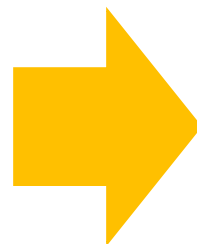
【認定理由】

阿蘇の広大な草原は、野焼き、放牧・採草という農業上の利用により千年もの長い間維持されてきたもので、この営みを通じて、今でも地域固有の文化、生物多様性、景観が形成されている点が評価された。



阿蘇地域世界農業遺産としての価値

(1) 人の手による草原管理



阿蘇を含む熊本は、温暖にして湿潤な気候
→草原は放っておくと森林になる。

阿蘇では、約22,000haもの広大な草原を維持。

阿蘇地域世界農業遺産としての価値

(1) 人の手による草原管理

- 低木を除去し、初夏にはススキなどを再び繁茂させる、省エネかつ効率的な草原の管理技術。
- 2月から4月にかけて行われる。

野焼き



阿蘇地域世界農業遺産としての価値

(2) 野焼きと焼畑農業の違い

場所		阿蘇	山北・三瀬
農法		野焼き	焼畑
植生		ススキ	スギ
地中温度 ℃	100 cm	260 - 540	170 - 960
	30 cm	330 - 580	200 - 570
	0 cm	70 - 160	90 - 520
	-2 cm	0	40 - 420
	-5 cm	0	0 - 100
	-10 cm	0	0 - 120

・「野焼き」では、素早く草を焼くため、土中の温度は上がらず、草の根や種には影響を与えない。

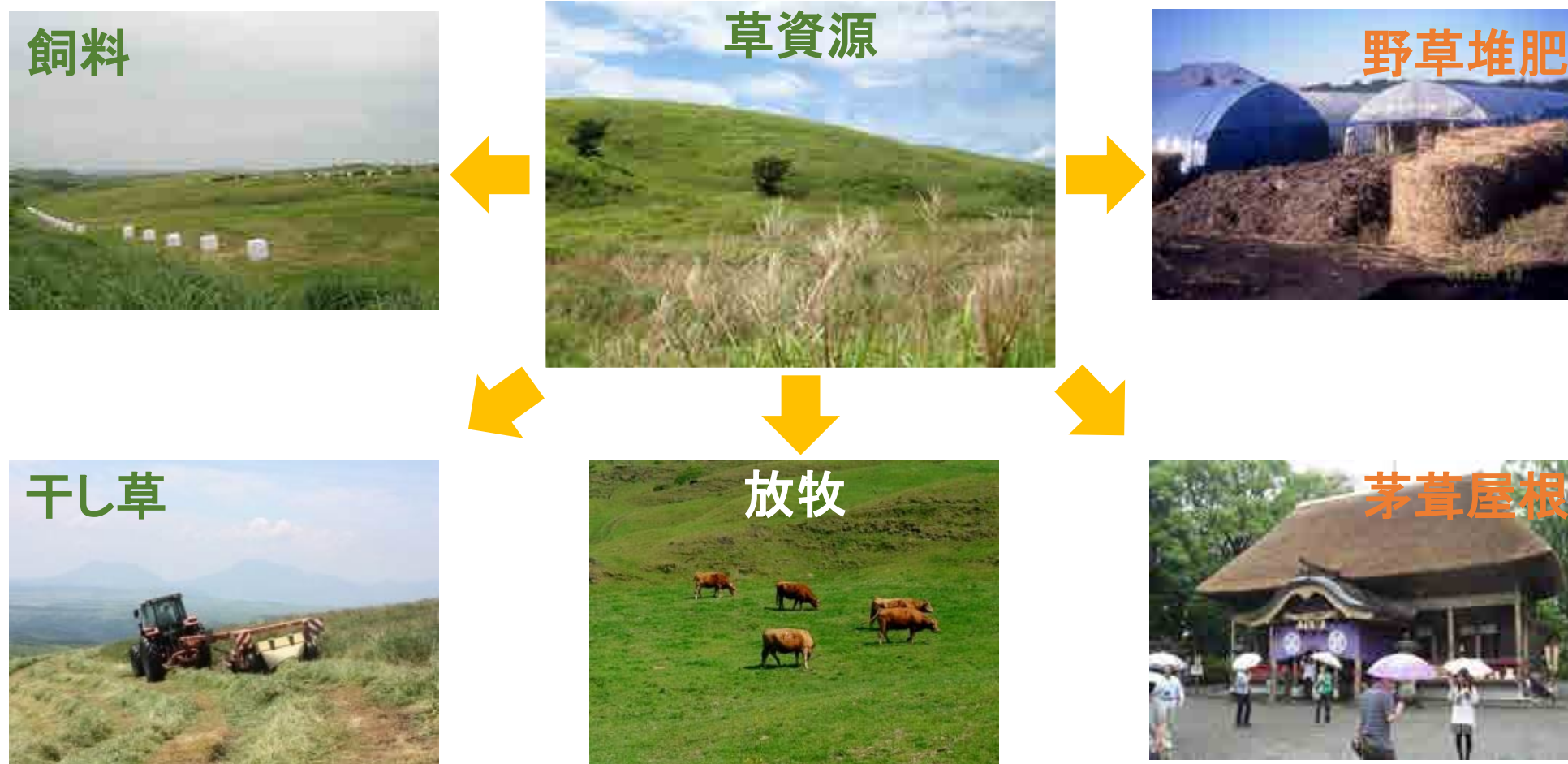
・「焼畑農業」は、燃える時間が長く、土中にある植物、動物を焼き殺す。

→生物多様性の維持の観点で大きく異なる。



阿蘇地域世界農業遺産としての価値

(3) 草資源の多様な活用



阿蘇地域世界農業遺産としての価値

(4) 草資源による土壌改良

- ・ 阿蘇は火山性土壌のため、生産性が低く、火山による降灰や降雨による浸水被害を受けるなど、元来、農業生産に適した土地ではなかった。
- ・ 千年以上にわたり、草を餌とする牛の堆肥や草を野草堆肥として使うことで土壌改良を実現。



阿蘇地域世界農業遺産としての価値

(5) 多様な農畜産業

- ・ 稲作をはじめ、夏季冷涼な気候を活かした野菜・花きなどの生産が盛ん。
- ・ 県内外でも夏秋産地として重要な役割を果たしている。



つるのこいも



黒菜



コシヒカリ



くまもとあか牛



トマト



トルコギキョウ

阿蘇地域世界農業遺産としての価値

(6) 希少な動植物

- ・ 草原が維持されていることにより、希少な動植物が多数存在。
- ・ 日本国内でも絶滅危惧種が集中している生物多様性ホットスポットの一つ。



オオルリシジミ



ヒゴタイ



キスミレ



ダイコクコガネ

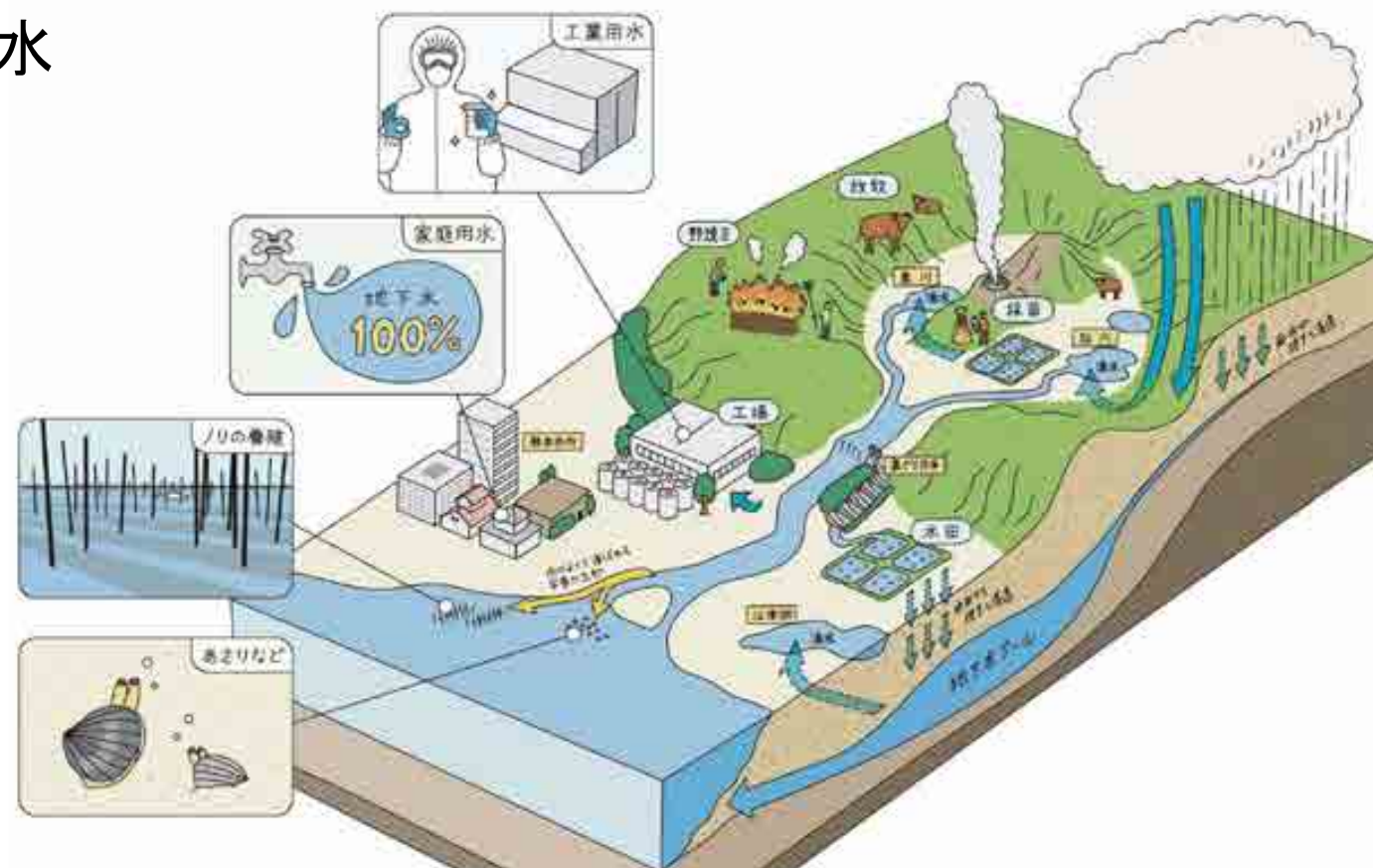
阿蘇地域世界農業遺産としての価値

(7) 豊富な地下水

阿蘇を源とする河川

- ①筑後川 (福岡県)
- ②菊池川 (熊本県)
- ③白川 (熊本県)
- ④緑川 (熊本県)
- ⑤大野川 (大分県)
- ⑥五ヶ瀬川 (宮崎県)

「北部九州の水がめ」
500万人に水を供給



阿蘇の特徴：①降雨量が多い ②浸透性の高い火山性土壌
③森林や広大な草原による水源涵養機能

阿蘇地域世界農業遺産としての価値

（８）農業と関わりに深い伝統文化

- ・ 阿蘇には、国指定重要無形文化財に指定されている農耕祭事があり、年間を通じ稲作儀礼が行われている。



火振り神事



おんだ祭りの宇奈利（うなり）

現状・課題

(1) 阿蘇地域を取り巻く現状

地元住民の高齢化

担い手不足

農畜産物の消費

草原面積、牧野組合数、野焼き面積、放牧頭数などが減少しており、草原の維持が困難に。→維持していくためには、農林畜産業と地域の活性化を図ることが必要。

草原を管理する人



草原を利用する人



減少

阿蘇地域世界農業遺産の取組み

(1) 農林畜産業の振興

阿蘇産農産物等の消費拡大

- ・ 県内外を問わず、阿蘇産農産物等の消費拡大を促進するため、様々なイベントを実施。
- ・ 6次産業化に取り組む団体や農業遺産を活用した周知啓発、PRに取り組む団体等へ支援を実施。

ベジフル感謝祭



産山村の甘酒「うぶあま」



- 東京都豊洲市場「豊洲場外マルシェ」への出展 (R4)
- 福岡市福岡大同青果「ベジフル感謝祭」への出展 (R5)
- 料理ソムリエ講師による料理教室「ベジフルクッキング」の開催 (R5)
- アニマルウェルフェアで飼育した豚肉と阿蘇産高菜を使用した商品開発 (R5)
- 産山村産の米で作る甘酒の販路拡大 (R4) など

阿蘇地域世界農業遺産の取組み

(2) 草原・景観の保全

野焼き→放牧→採草サイクルの保全

- ・ 野焼き再開に取り組む団体への支援を実施。
- ・ 草原・景観維持にも寄与する繁殖あか牛導入への支援を実施。
- ・ 採草活動や茅刈り活動の支援を実施し、地域経済にも寄与。

景観の保全

- ・ 阿蘇の風物詩でもあった草小積み再生への支援を実施。

千里ヶ浜の野焼き



草小積み



- 野焼き再開支援：3 牧野組合
- 繁殖あか牛導入支援：1 5 2 頭
- 採草活動支援：約 4 1 7 ha
- 草小積み再生支援：7 8 基

※過去3年分（R3～R5）の実績

阿蘇地域世界農業遺産の取組み

(3) 交流の拡大

各種イベントによる交流人口の増加

- ・ 交流人口の拡大を目的に、「阿蘇地域世界農業遺産フットパスコース」を作成。地元ガイドの協力もあり、阿蘇地域の景色や暮らし、文化を体感できるイベントを実施。
- ・ 県内外におけるPR活動をはじめ、執筆活動、クイズイベント等幅広く実施。

フットパスイベント



九州世界農業遺産フェア



- 新千円札発行記念として、北里柴三郎の出身地小国町でフットパスイベントを実施 (R5)
- 九州世界農業遺産フェアへの出展 (※)
- くまもと農業フェアへの参加 (※)
- 大日本農会会誌「農業」における執筆 (R5)
- 伊勢丹新宿ギフトセンターでの展示 (R3)

など

阿蘇地域世界農業遺産の取組み

(4) 阿蘇から世界へ

2025年大阪万博のパビリオンに

- ・ 2017年から「阿蘇の茅材」の商品化と野焼きのリスク軽減を目的に「茅刈りプロジェクト」を実施。
- ・ 茅刈り、野焼きボランティア初心者研修会も実施し、ボランティア参加者の安全な活動を支援。
- ・ 2025年4月に開催される大阪万博のパビリオンに阿蘇産の茅が使用されることが決定しており、さらなる進展が期待される。



茅刈り



茅刈り説明会



パビリオンイメージ図



阿蘇地域世界農業遺産の取組み

(5) 阿蘇世界農業遺産基金

- ・ 世界農業遺産を応援いただける企業から、寄付金を受け入れる「阿蘇世界農業遺産基金」を平成26年から実施。
- ・ 令和5年までに、95,906千円もの寄付金を受け入れ、草原維持への取組み等に大きく貢献。

○これまでに

- ・ 熊本県酪農業協同組合連合会（らくのうマザーズ）様から、商品の売上の一部を御寄付をいただいています。
- ・ 肥後銀行様から、定期預金キャンペーンの一つとして、預金総額に応じた一定割合を御寄付いただいています。
- ・ その他に、これまで14団体・個人の方から御寄付いただいています。

県酪連 様



肥後銀行 様



未来につなぐ 熊本県 企業版ふるさと納税 ～阿蘇草原の維持・再生に関する取り組み～

熊本県では、阿蘇の草原を次世代に継承するために以下の取組みを行っており、この取組みに対するご支援を企業の皆様からいただくことで、阿蘇の草原を守ることができます。



1 野焼き後継者の育成

野焼き従事者の後継者育成に向けて、火入れ研修等の支援を行います。



2 野焼きの再開・継続支援

野焼きを休止している牧野や野焼き継続が困難になっている牧野の野焼き再開・継続に向けた支援を行います。



3 恒久的な防火帯の整備

作業省力化や延焼防止を目的に、鉄鋼スラグ等を活用した恒久的な防火帯の整備を行います。

未来につなぐ

阿蘇草原応援企業サポーター認証制度

新たな担い手や財源を確保することを目的に、CSR活動として草原維持のボランティアや募金に取り組む
企業・団体を「阿蘇草原応援企業サポーター」として認定し、支援します。

【認定対象者】

- ・ 草原維持のボランティアに参加する企業・団体
- ・ 草原維持の寄付や募金を行う企業・団体

「阿蘇草原応援企業サポーター」に認定されるメリット

- ・ 草原維持のボランティアに参加する経費を支援
(15万円/団体)
- ・ 熊本県ホームページや熊本県等が運営する広報媒体に掲載
- ・ 阿蘇草原応援企業サポーターロゴマークを企業・団体の
ホームページや名刺などに使用可能



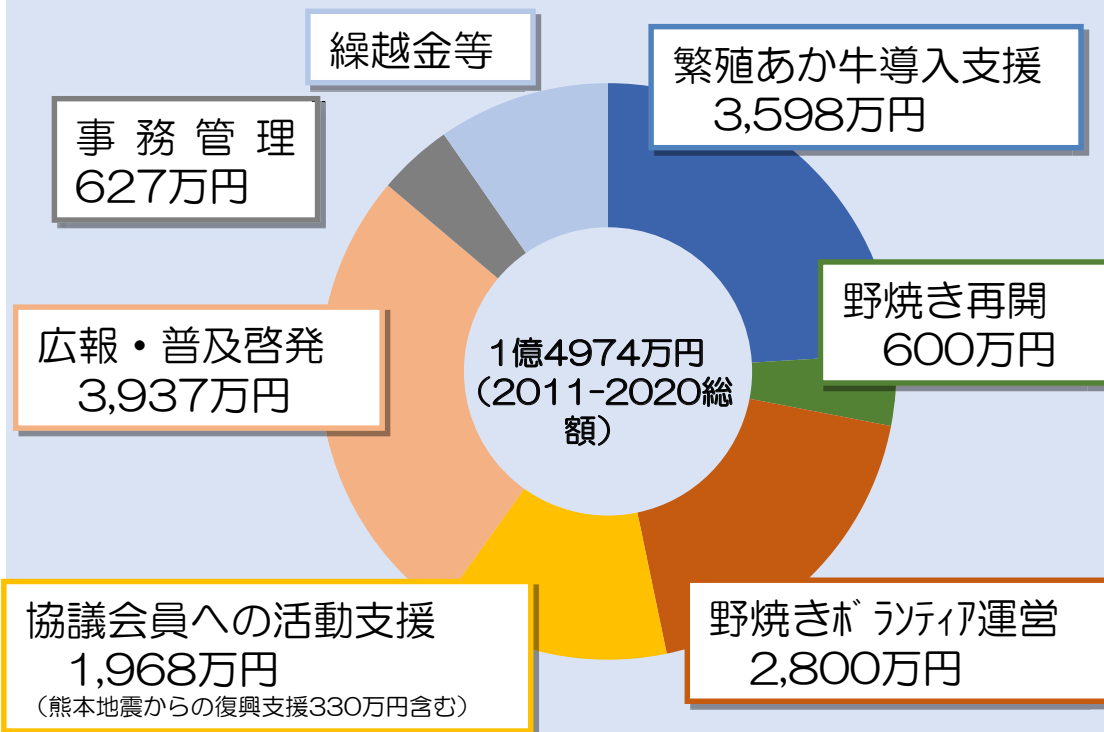
HPはこちらから

企業版ふるさと納税において、阿蘇草原に関する事業に寄付いただいた企業・団体も認定の対象となります！

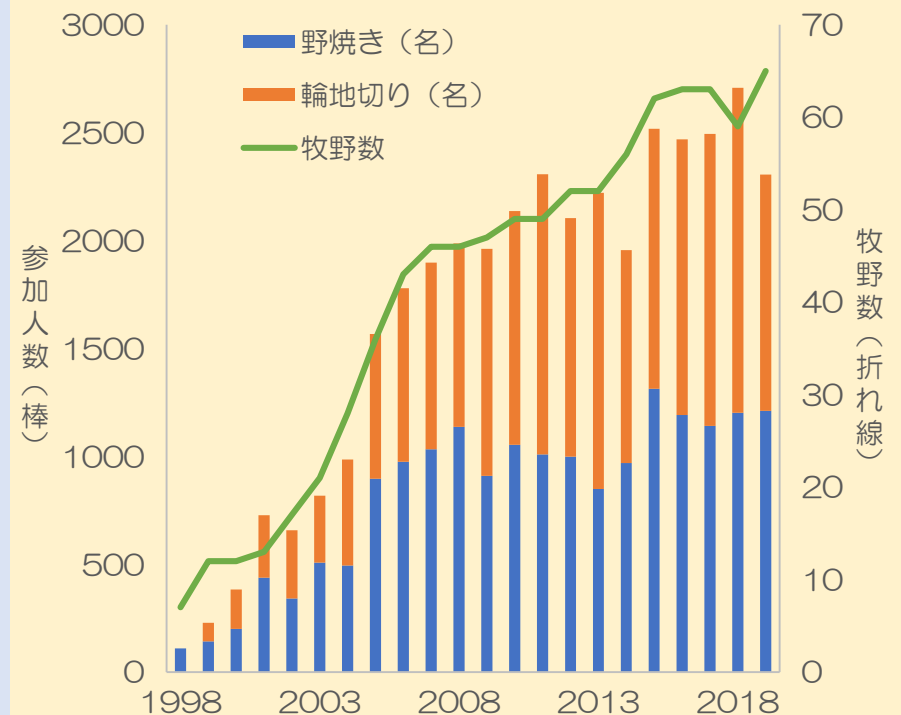
- ・ 自然再生推進法に基づき、平成17年に設立。
- ・ R6.3現在で、構成員は、270団体・個人
(内訳：区・牧野組合121、行政17など)
- ・ 「阿蘇草原再生基金」の創設や、野焼きボランティアの活動を推進。



阿蘇草原再生基金の実績



野焼きボランティア活動



草原再生の支援

ボランティア派遣人数

平成10年度 令和4年度
 輪地切り 0人 → 1,020人
 野焼き 110人 → 1,218人

ボランティア派遣牧野数

平成10年度 令和3年度
 175組合中 0組合 → 156組合中 62組合

野焼きプロ人数

令和5年度 ※制度開始初動期のため、講習中の人数を掲載
 13人

防火帯整備支援件数

令和5年度
 46件
 保安林解除件数
 0件（保安林解除に向けて調整中）

ボランティア派遣牧野位置図



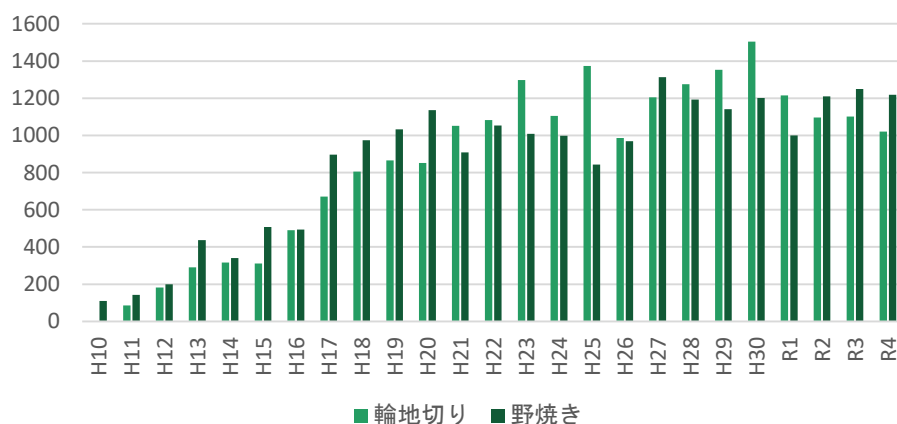
防火帯整備支援件数



左：急峻な輪地切り箇所
 右：作業道を兼ねた恒久防火帯を整備
 ・2006年から開始した事業で、
 これまでに、46の牧野で整備済

※一部情報整理中

ボランティア派遣人数の年間推移（人）



* 阿蘇草原再生レポートデータより

令和5年度 人材育成（野焼きプロ）研修実績

人材育成研修	分類	環境省野焼き専門家集団育成モデル構築	南阿蘇村火引きプロ人材認定制度
講習	講師	—	1名
	参加者	1名	12名
火引き実習①	講師	—	4名
	参加者	1名	11名
火引き実習② 3/3 下萩の草牧野	講師	1名	—
	参加者	1名	—
火引き実習② 3/2 長野牧野	講師	—	—
	参加者	—	3名
火引き実習② 3/3 上二子石牧野	講師	—	—
	参加者	—	4名

* 令和5年度阿蘇草原再生活動促進方策検討業務報告書より

草原再生の支援

草原再生への寄付

阿蘇草原再生基金への 寄付額

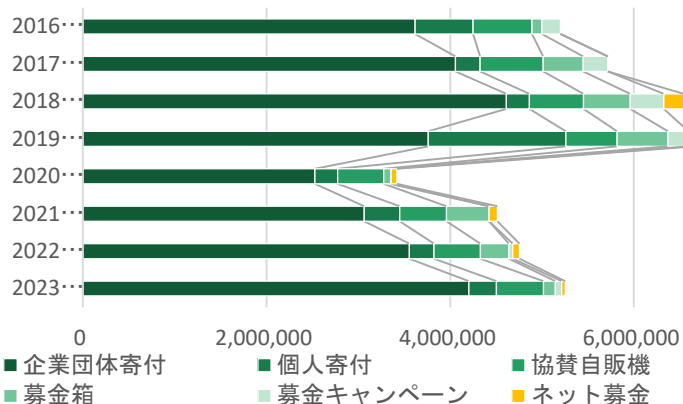
2016年度
5,200,618 円

内訳 企業団体寄付 3,619,270 円
個人寄付 630,045 円
協賛自販機 640,039 円
募金箱 109,645 円
募金キャンペーン 210,619 円
ネット募金 0 円

2023年度
5,252,305 円

内訳 企業団体寄付 4,202,314 円
個人寄付 301,000 円
協賛自販機 513,210 円
募金箱 129,404 円
募金キャンペーン 67,278 円
ネット募金 39,099 円

阿蘇草原再生募金への寄付額の推移（円）



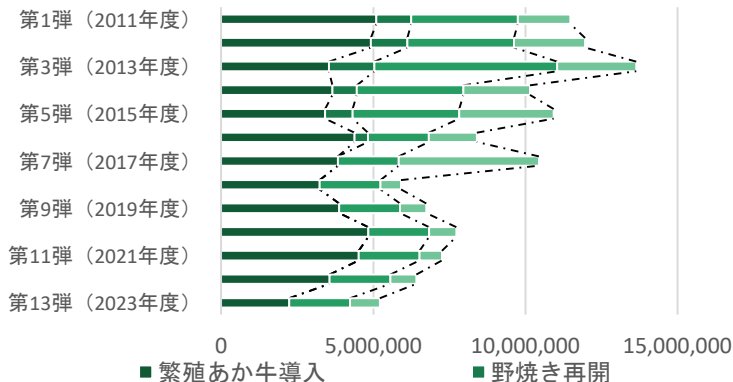
阿蘇草原再生募金による 助成実績

2011年度
11,475,104 円

2016年度
8,400,281 円

2023年度
4,917,342 円

阿蘇草原再生募金による助成実績の推移（円）



* 阿蘇草原再生募金資料より

* その他、2018年に個人からの高額寄付がなされ、「阿蘇草原再生募金」とは別に「ヒゴタイ基金」を創設。

阿蘇草原応援企業サポーター 認定事業者数*1

2024年 8月現在

40 社

熊本県企業版 ふるさと納税への寄付額*1

2021年～2023年の合計

8,405,686 円

※県外に本社をもつ企業のみ寄付が可能

公益財団法人 阿蘇グリーンストック への寄付額*2

2016年度

5,560,253 円

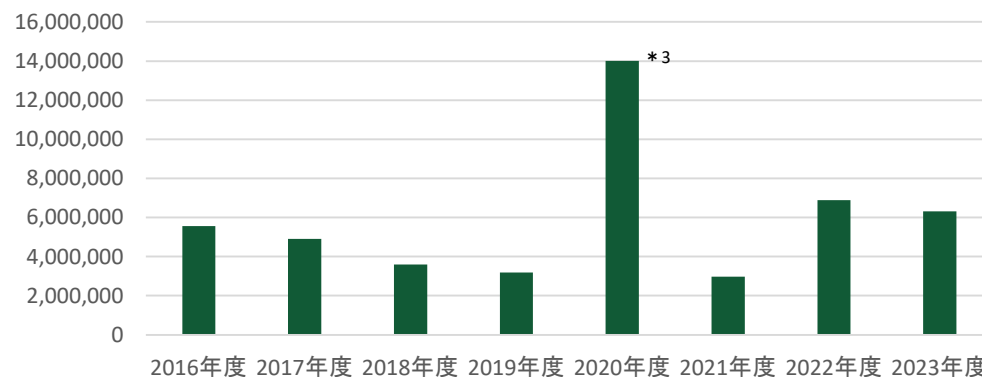


2023年度

6,306,742 円

※草原再生以外の事業にも活用されている

公益財団法人 阿蘇グリーンストックへの寄付額の推移（円）



*1 熊本県提供データより

*2 阿蘇グリーンストックHP「決算報告：受取寄付金」より

*3 2020年度は個人からの高額寄付等により寄付額が増加している。



未来へつなぐ

千年続く美しい景観、文化を後世に残していくために

- ・ 美しい草原と田畑、阿蘇の人々が育んできた農業と景観の豊かさは私たちの誇りです。
- ・ 阿蘇といっしょに生きてゆく、阿蘇を守り、阿蘇を楽しむことで、
阿蘇の草原の維持と持続的農業を進めていきます。
- ・ さらには、県、地域一体となり、**世界文化遺産登録を目指しています。**

